

# 双葉町・大熊町で見学会を開催しました

## 概要

目的：町外に避難している双葉町・大熊町の住民に、東日本大震災・原子力災害伝承館の見学や双葉町・大熊町の車窓からの見学を通じて町の復興の様子を見てもらうと共に、放射線の話や意見交換をしながら避難生活で感じる不安や疑問を共有することで、双葉町・大熊町を訪れる際の不安払拭等に繋げる。

開催日時：令和5年3月4日（土）10:45～15:55

開催場所：双葉駅周辺、東日本大震災・原子力災害伝承館、大熊町役場周辺

参加者：双葉町、大熊町に住民登録があり、現在は町外に居住している方3名

講師：松原昌平（原子力安全研究協会）

ファシリテーター：葛西賀子（フリージャーナリスト）

開催内容：バスの車窓から双葉駅周辺を見学し、東日本大震災・原子力災害伝承館では、原子力災害の記録や復興に向けた廃炉等の取り組みについて理解を深めた。講話「放射線のお話」では、放射線の基礎知識や健康影響等について学び、その後、参加者間で普段の生活において放射線に関して不安なことはないか、気になっていることはないか等、意見交換や質疑応答を行った。最後にバスの車窓より大熊町役場周辺を見学した。



## 主な意見交換等

●福島市に避難している娘が放射線を気にして未だに洗濯物を外に干さない。私から外に干しても良いことを伝えても受け入れてくれない。

→福島市の空間線量率は健康への影響はない程度である。

Q放射線による影響で奇形児が生まれるという話を聞くが、実際はどうか。

A県内と県外での割合を比較しても差は確認されていない。

●町内に住みたいと考えていたが、高齢であることや子どもから反対されていることから難しい。

●自宅は中間貯蔵施設内にあるため、帰ることができない。

●町内に住むことは難しいため、たまに戻ってきてホテルに泊まって町内で過ごしたいと思っている。

QALPS 処理水を海洋放出すると聞いているが、健康への影響は本当にないのか。

A科学的には問題がない。漁業関係者も科学的に問題がないことは理解しているが、理解や納得をしていない方からの風評被害を心配している。

## アンケートより

●無知な自分が恥ずかしくなったが、講師の話がよく分かった。とても分かりやすく説明してもらい、これからも勉強したいと思った。

●参考になった。よく理解できる話であった。

●講師の話聞き、少し安心感を得た。

## 開催の様子

